

退職者 No.90
こだま会報



まちからむらから一人ぼっち の高齢者をなくそう



足柄平野の千枚田にて (高木信幸さんの作品)

目次

- ・表紙写真／コラム散歩道……………①
- ・楽しい趣味の会……………②③
- 歴史教室／囲碁同好会／こだま俳壇／ビーズ手芸の楽しさ／予告
- ・会員紹介 (笹原 勇さん)……………④
- ・BOOK／県庁はいま……………⑤
- ・全国自治体退職者連絡会第13回総会……………⑥
- ・日本高齢者大会／こども医療センターで平和学習会……………⑦
- ・絵手紙／映画随想／事務局だより……………⑧

3塁審判をした試合、福岡県代表チームの投手で、並外れた体格、加しました。

現役時代の職員大会では、平成5年、広域農道・南足柄農改との連合チームで優勝し、はからずも56歳で最優秀選手に。

平成10年の神奈川県国体では、2年ほどの特訓を経て、60歳になっていましたが、小田原会場で、少年女子(高校)の審判員として参加しました。

35歳の時、南足柄に居を構えたのを機会に、日曜日に早朝練習をやっている地元自治会チームに、「健康上いいかも」と入会しました。以後、ウインドミル投法の習得、審判員登録、市協会の役員に。

ソフトボールに魅せられて

望月 有

小生、今は50歳以上の実年、59歳以上のシニア、65歳以上のハイシニアの市大会、県大会に出場し、5割近い打率を残しています。審判もやり、ゲームも楽しむ73歳です。

ソフトボールには競技選手として鍛錬努力するケースと、子どもさんから年配者まで生涯スポーツとして、心から楽しむケースがあります。

ソフトボールには競技選手として鍛錬努力するケースと、子どもさんから年配者まで生涯スポーツとして、心から楽しむケースがあります。

数年後、彼女こそ、あの北京オリンピックで413球の熱投、優勝の原動力となり、我々国民に大きな感動を与えてくれた『上野由岐子さん』だったことを知り、またまた感激。

ソフトボールとの出会い は古く、小学校時代で、甲府盆地の外れの「郡」大会に捕手として出場したことを覚えています。終戦後まもなくの頃で、皮製の3号ボール(今日では成人用)を使用、グラブなし、素手での試合でした。おかげで、両手小指は、突き指で曲がって短い。

物凄いスピードの投球を展開していた彼女に、近い将来きつと、日本女子を担うすごい投手になるに違いないと予感しながら、審判していました。試合は進み、完璧な投球をしていた最終盤、ツーストライクと追いついで投げた次の外角高めめの速球に、左打者がわずかに反応した。球審からハーフスイングのチェックの要求を受けた。観客は一斉に注目。

ひと呼吸、一瞬の静粛の直後、〃振った〃のジェスチャーを返した。〃三振!〃スタンドはどつとどよめいた。

楽しい趣味の会

9月13日(月)午前10時、JR「大磯駅」に集合。参加者12人。晴れ。大磯駅から旧東海道へ。

●松並木

慶長9年(1604)、徳川家康が植えた。大磯宿も品川から8番目の宿

歴史教室 散策

場として栄えた。松並木は、今も江戸の面影を伝えてい

大磯に高麗の跡を訪ねる

で顔を洗い化粧をした。この頃の「化粧坂」を歌った古歌がある。「鎌倉の若殿ばらが駒とめて通いし坂路夜の雨さむし」。近くにある「釜口古墳」の説明も受ける。

●高来神社

江戸時代まで、高麗寺。明治元年高麗神社へ。同30年高来神社と改称。時代は約700年前、古代朝鮮民族「高麗王若光」が大磯海岸に渡来した。彼らは未開地を開拓して、織物・農業・採鉱冶金・仏教思想・文化教養などを日本へ伝えた。その子孫の神社でもある。

昼食は、化粧坂の東口近くの食堂で、定食「サンマ・いわし」を注文。炭火焼きで昔ながらの食感絶品!元気をいただく。食文化バンザイ!

●延台寺「法虎庵」

舞の名手・虎御前と曾我兄弟の伝説は、鎌倉時代の

延台寺「法虎庵」にて



島崎藤村などの墓 (地福寺)



前と曾我兄弟の伝説は、鎌倉時代の大磯を代表するもの。虎御前は、工藤祐経が曾我十郎を返り討ちに、身代わりとなった石と伝えられている。現在、同寺に所蔵されている。当日は猛暑で、

「大和ヒカル棋院」で

囲碁を楽しみましょう

囲碁同好会

2003年8月から82回続いている囲碁同好会

10年に大和駅そばに開いた「大和ヒカル棋院」に会場を移しました。



会場が、交通の便がいい横浜駅西口の囲碁サロン「有心」から2010年7月に、大和ヒカル棋院に変更しました。

「有心」の席主・経営者の交代があり、席料・会費が1000円に値上げされました。このため、こだま会員の千野忠良さんが20スから6段まですべてのクラスが揃っています。(青沼慶祐)

気温33・4度。境内にサルスベリの花が見事。一服の清涼剤であった。

●島崎藤村の墓「地福寺」

承和4年(837)創建。境内には『破戒』、『夜明け前』などの名作を残した文豪・島崎藤村の墓がある。梅の古木に囲まれ、傍らに妻・静子と眠る。

●鳴立庵

西行法師の歌で名高い鳴立沢に、寛文4年(1664)に立庵され、

現在は第22世が運営。日本3大俳諧道場(京都の「落柿舎」、滋賀の「無名庵」とならんで)のひとつと言われている。

当日は、残暑厳しきなか、1人の落伍者もなく、気力・体力(昼食が良かった)で散策ができ、赤い三角屋根・木造り駅舎の「大磯駅」を後にした。

残暑日歴史を歩いて鳴立庵 扶助手 (佐藤喜治)

こだま俳壇(9月)

工夫夫が並んで昼寝風の道 松尾佐知子
 盆灯籠空家もつらね町おこし 小川 水草
 久々の雨に一息秋なすび 鳥海 敏雄
 耳しいの父は風鈴眺めおり 田中 一男
 炎天や金魚に愚痴言い太らせる 白石 為康
 夏帯をきりりと締めし日を想う 鈴木志げ子
 山寺の鐘にほころぶ月見草 中村 佳子
 温度計たびたび覗く酷暑かな 島田多嘉子
 肩掛けは藍染絞り夜の秋 三井 光子
 夏山や足を伸ばして滝三つ 坂 守
 駄菓子屋に群がる子ども玉の汗 木村 武子
 玉の汗皿の酢豚に箸つけし 高橋 和江
 台風過ゴーヤの葉ゆれ風涼し 横川美代子
 梅干して三日で皺になりにけり 石崎 博美
 スモッグの空に馴れたり終戦日 白井保次郎
 港行き電車の汚れ残暑かな 井村 友彦
 夏深き木立の中の散歩道 佐藤 安弘
 開拓に多くは破れ草の花 太田 土男

予告!! 予告!! 予告!!

- 歴史教室(講義)

テーマ 頼朝暗殺の謎と三浦氏の立場
 とき 11月8日(月) 13時30分~15時30分
 集合 神奈川自治会館
 講師 中村猪一郎会員 参加費 無料
 申込先 こだま会事務所045(212)3179
 又は045(361)0112(佐藤喜治)
- 囲碁同好会

月例会(毎月第1日曜)11月7日 12月5日
 ところ 大和ヒカル棋院 会費 700円
 申込先 こだま会事務所045(212)3179
 又は青沼慶祐045(782)7665
- 俳句教室

月例会(毎月第2木曜日13時~)
 11月11日 12月9日
 ところ こだま会事務所(予定)
 指導 太田土男先生(現代俳句協会)
 会費 500円
 申込先 こだま会事務所045(212)3179
 又は井村友彦0463(81)4493
- 食文化を楽しむ会(薬膳料理)

とき 11月25日(木)11時~
 ところ 横浜市健康福祉センター・調理
 実習室 JR「桜木町」駅前
 先生 上野多恵子さん(会員)
 会費 1800円
 申込先 こだま会事務局045(212)3179
 上野多恵子045(831)8372
 亀井 禎子045(332)4601
 山本 文子03(3728)2227
 11月初旬までにお申し込みを
- こだま会「健康講座」

とき 11月19日(金)13時30分~16時
 ところ 小田急「相模大野」駅下車10分
 北央医療生協本部2F会議室
 電話042(748)2261
 内容 お話しと健康体操の集い
 問合せ こだま会事務所045(212)3179



高橋さんの作品

ビーズ作りの楽しみ

私がビーズアクセサリー作りを始めてから、もう8年近くになります。もともと、子どものころから編み物なども母に教わるなどして、手芸が大好きでした。

一粒のビーズから

一粒の小さい綺麗なビーズから、一生懸命数を数え、テグスを使って複雑な編目を駆使してひとつのモチーフが出来上がったときは、とても嬉しくなります。宝石ではないので、特別高価なものではないですが、キラキラ光るスワロフスキービーズなどは、かのマリ・カラスなどが愛用したそうで、身につけている者を華やかに見せてくれます。

自分流に楽しみながら

基本の編み方を覚えれば、誰にも出来ますし、何よりも色や形、材質の違うビーズを使って自分の好みのアクセサリーが出来上がるのは、楽しいものです。これからも自分流

手作り文化祭のご案内

—神奈川自治労連退職者会主催—

絵画・写真・絵手紙・陶芸・手芸・俳句
 短歌・合唱・フラダンス他
 とき 11月3日(水・祭日)
 ところ 横浜市従会館(桜木町下車)
 応募締切 10月19日(火)
 搬入締切 11月2日(火)午前中までにこだま会事務所へ
 問合せ こだま会事務所 045-212-3179

高橋さんの作品は、「手作り文化祭」(右参照)で観ることが出来ます。お誘いあわせてご参加を。
 * * *
 高橋和江



会員紹介

夏の終わりと... 夏が終わると... 日でした、京浜... 急行「平和島」... の改札口に白の帽子と黒かばんの... いてたちで初対面の笹原さんと落... ち合いました。

退職をしたら地域へ 恩返しをしたい

笹原さんは、退職後に奥さんの病気による入院や、葬儀などで町内の方々からいろいろお世話になったことに感謝し、退職後は地域への恩返しをと考えておられたようです。県の非常勤勤務が終わったのを機会に、以前から要望されていた町会の副会長や町会長を永く勤めてこられました。

ここ大森は、江戸時代に全国の7割以上の生産を誇った大森(浅草)海苔の名産地でした。また、明治末期より家内工業が発達し、軍需産業が集積していたので、戦時中は19回も爆撃を受けたところ

縦にも横にもつながる 地域コミュニティ 施設を育てたい



笹原 勇さん

です。しかし戦後、いち早く京浜工業地帯の中核として町工場が復活、いまはマンションの立ち並ぶ町となっています。

小学校の統廃合問題で地域の声を集め

付近には、2つの小学校が近接してありましたが、9年前、少子化問題から統廃合問題が浮上し、大田区と関連する町会やPTA関係者などで協議が行われ、

統合問題は是としても、廃校となる建物の活用方法が問題となりました。公園にして防災拠点にする案や、保育園、高齢者施設案などが

が出てきて收拾がなくなってきたので、ワークショップ方式によるとりまとめを試み、子育て支援施設・中高生・高齢者の居場所づくり、区民活動支援施設などいろいろな意見が出て、これらをまとめて区へ提言し、今の施設が誕生したわけです。

多彩な機能を備えた施設へと発展

笹原さんが理事長を勤めている「NPO法人おおもりの子どもセンター」は子ども関係を、また、体育館・グラウンドを含む施設全体の運営管理は「NPO法人大森コラボレーション」が行い、2つの法人で行政に替わって地域が事業の運営・管理を請け負うことになりました。



幼児運動会の予行練習

レ(スワヒリ語:のんびり行こう)というお祭りです。「自然素材でゴミはつくりたくない」「都会の孤独をなくす」を基本に、手づくりの子ども御輿にはじまり、子どもたちの「よさこいソーラン」、艶やかな衣装をたくし上げた親子の「下駄タップダンス」などにぎやかな舞台や、近くの公園で集めたドンダリや栗などで手づくりした「どんぐりクッキー屋」、施設

004年に「子ども交流センター」を開設し、子育て支援施設として学童保育・幼児クラブ・中高生の居場所づくり(音楽を含めたサークル活動の支援)や、ファミリールームの設置などの事業を開始しました。職員は、館長を含めた指導職員8名と事務職員1名で、区や東京都からの委託金、助成金で運営しています。

「ポレポレまつり」に3千人 世代を超えて交流

年に1回開催している地域の子どものまつり「ポレポレまつり」は、エコな「江戸のまちを学ぼう」をコンセプトにしたポレポ

の成果を存分に発揮したお祭りになり3千人くらい集まるそうです。笹原さんは、「火」「水」「土」の自然を接着剤として、どの世代も年代も超えた、縦にも横にも繋がる「子育て支援施設」を、また、地域のコミュニティーの場を利用して地域力の向上に努めて行きたいと抱負を語っていました。

(文と写真:鳥居伸太郎)

BOOK



発行：新潮社。四六版変型。527頁・1995円。

「九条の会」でおなじみの井上ひさしさんは、『吉里吉里人』『ひよこりひよこたん島』『父と暮らせば』

『新共産党宣言―不破哲三との対談』

など、小説や戯曲、評論で、楽しく面白いと

同時に、社会的にぶれない厳しい視点の作品

で、私たちを魅了する作家。

* * *

この著作は、ロシアの捕虜収容所を題材に、『小説新潮』の00年〜06年に36回にわたりに掲載されたもの。著者は単行本化を予定していたところ、亡くなられたため、新潮社により単行本として刊行された。

* * *

昭和21年、ロシア・ハバロフスクの捕虜収容所が作品の舞台。

満州の黒河で極東赤軍の捕虜となった小松修吉は、ハバロフスクに移送される。収容所の1週間、事件、

笑いあり、怒りあり、嘆きあり
井上ひさしの長編小説 『一週間』

事件の毎日の生活は？

* * *

東京外語ロシア本科出身の小松は、語学故に『日本新聞』の編集をやらされる。この新聞は洗脳のため配られるものだが、小松に情報が集まり、耳に入るようになる。

シベリアの収容所は約2千箇所、約60万人が連行された。極東赤軍と関東軍の交渉の結果、軍事国際法は無視され、旧日本軍の階級統制が温存された所が多かった。

強制労働で使役される兵は、使役にも出ず、兵の食糧をかすめとる上官に物言えば威張られ、傷めつけられ、空腹と寒さをじっと耐える姿は痛ましい。

国際法も知らぬ将校たちには腹を立てる小松。世話焼きでもある。

* * *

元軍医の入江一郎は、収容所から脱走を企て、成功するなり元に戻ってきた。この入江の話を、小松は手記としてまとめる命令を受け、聞き取る。レーニンが少数民族の出身だとする古い手紙の争奪戦にはらはらし、少数民族とのふれあいに心なごむ。

笑いあり、怒りあり、嘆きあり、読みごたえある長編小説である。

(木村武子)

1 県庁はいま

変貌した神奈川県庁 官製ワーキングプアが拡大

6月のこだま会総会で、「県庁では、指定管理者制度などが導入されたが、現場はどうなっているの？」と心配の声が上がりました。そこで、「県庁はいま」を県職労連執行委員の鈴木恵理子さんに書いていただきました。連載でお届けします。

● 県職員は大幅削減

長洲県政下の1992年度

の人員増闘争で、一律5%職員の削減が打ち出されるなか、条例定数改正による大幅人員をめぐす3万人の県民署名や県議会要請行動、職場からの行動を配置して、保留定数を吐き出させ人員増を勝ち取った歴史は、こだま会の皆さんも記憶されている方が多いのではないのでしょうか。



しかし、その後1995年からの岡崎県政、2003年からの松沢県政でさらに人員削減が進行。1995年に13474人いた知事部局の職員は、今年4月に県立病院が独立行政法人化され2251人が公務員の身分を奪われたこともあり、今年6月の神奈川県職労連の調査では、正規職員が7499人、再任用職員が短時間再任用も含めて452人と、大幅に減りました。

● 増える非正規と委託労働者

昨年、松沢知事が打ち出した「残業ゼロ革命」で、「業務の見直し」が叫ばれています。しかし議会対応や過剰な書類の作成、内部調査など、人員が減っても業務は減らないのが実情で、とても職場が回りません。

増え続けているのは非常勤や臨任などの非正規労働者と民間委託。民間委託については追ってふれますが、神奈川県庁で働く非常勤職員は約1600人、臨時的任用職員は203人と大幅に増えています(神奈川県職労連の調査)。非常勤職員といっても一般非常勤は雇わず切っていく方向。4年前から「行政補助員」という形で3年有期雇用の非常勤制度が導入されています。

つまり、不安定雇用、低賃金、低労働条件で働く職員によって、県行政が支えられていると言っても良い状況です。(続く・県職労連執行委員 鈴木恵理子)

全国自治体退職者会連絡会第13回定期総会・広島



後期高齢者医療制度の 廃止・最低基礎年金の 確立・平和・生きがい などで交流

猛暑の8月21日(土)、全国自治体退職者会連絡会の第13回定期総会が広島市内で開かれました。参加者は23自治体、24退職者会組織の計47人。

総会は加藤事務局次長(こだま会副代表幹事)の司会で開会。議長は京都府職の山崎さんで、初めての女性議長でした。

最後の「しゃべり部」世代として

城田会長は、「熱中症」や「消えた高齢者」問題をはじめ、後期高齢者が困塊の世代をむかえ毎年10万人単位で増える結果、医療、介護、年金など社会保障の問題が焦点にならざるを得ない段階にきている。近年はかつての公務員労働論がまともに通らないし、公務員年金に対する国民の反発が並でなく、現役世代が苦闘している。平和の問題では私たちの世代が最後の「しゃべり部」世代であることを自覚し、次の世代につなげていきたいと強調しました。

共通課題で政府交渉

長澤事務局長の活動報告では、結成4年目になる全日本退職者組織協



議会(全日本年金者組合・日本国家公務員退職者の会連絡会・全日本退職者職員連絡協議会・全国自治体退職者会連絡会)が政府・厚生労働省への要請や交渉など共通課題で一定の役割を果たしていること等を強調しました。

〈発言の主な内容〉

・年金一元化問題で、国民年金、とりわけ最低基礎年金の確立を軸にしてとりくむ必要がある。

・退職者の老後は社会発展に寄与し生きがいを持って貢献していくスタンスが大切だ。

・楽しい企画として旅行会をとりくんだが、60歳代のグループと80歳代のグループの意見が合わず、一泊、日帰り、お花見、釣り、ハイキングなど機会をたたくさんつくっている。

・一人で何もしていないと早くボケてしまう。みんなで集まってワイワイやる場所づくりが大切だ。

その他、平和行進、革新懇、憲法九条の会の立ち上げや運営の報告などもありました。困っていることでは、会員の組織拡大で、退職者の増加の割りに再任用退職者の名簿が個人情報保護法などを理由に手に入らず組織化が困難になっているなどでした。

好評『つたえたい想い』

戦中体験記『つたえたい想い』発行以来4ヶ月。

この間、『毎日新聞』(8月13日)、『神奈川新聞』(8月15日)、『しんぶん赤旗』(8月22日)、『新かながわ』(9月19日)などマスコミ各社が報道。会員からの注文をはじめ、県職労や病院労組での普及活動などで、在庫は残りわずかになりました。引き続き「戦争を風化させない」とりくみを進めましょう。



神奈川から、戦中体験記『つたえたい想い』の発行のいきさつや、神奈川県自治労連退職者会の「手づくり文化祭」などの活動を報告しました。会場などで『つたえたい想い』を10冊販売しました。
新役員には、神奈川から副会長に森田謙一さん(横浜市従退職者会)、事務局次長に加藤利秋さん(県職労連退職者こだま会)が選出されました。(鳥居伸太郎)

第24回日本高齢者大会 in 水戸

「介護保険制度の改善を
めざす運動交流」分科会

私は日本高齢者大会に参加して、「人の生きる権利や人間の尊重」が、いかにふみにじられているか、思い知らされました。

出席した分科会「介護保険制度の改善をめざす運動交流」でも、全体集会の報告でも、「所在不明高齢者の実態」や「老人孤独死」、「介護殺人・心中」など、続発する痛ましい事件の根底には、貧困問題が大きな要因になっていることが指摘されました。

まちからむらから
一人ぼっちの高齢者を
なくそう

「まちからむらから一人ぼっちの高齢者をなくそう」と9月13日・14日、茨城県水戸市内で開かれた第24回日本高齢者大会。参加した加藤利秋さんと鳥居伸太郎さんのレポートをお届けします。

大会は「高齢者の権利条約実現」の大会アピールと併せて、6本の特別決議「後期高齢者医療制度の廃止」、「介護保険制度の抜本的改善」、「仕事といきがい」、「最低保障年金制度の実現」、「消費税引き上げ反

「高齢者施設をつくる」分科会

一人暮らしの高齢者の孤独死や熱中症で亡くなる事件が多発した今年の夏。こうした中で開かれた高齢者大会。私は「高齢者施設をつくる分科会」に参加しました。

〈講師・竹森八千代氏の発言要旨〉



核家族で家族の見取りの余裕がない、家が狭く介護に適さない、バリアフリー化が困難の条件下で、「最後まで家で暮らしたい」という願いと、それでも「家

で暮らせない経済的ジレンマがある。「住み慣れた街で、その人らしく生きる」ことを実現させたい思いで、医療生協の一部門として介護保

対」、「核兵器のない世界を」の提案と、次回の大会を青森市で開催することを確認して閉会しました。

参加者は両日を通して述べ4513人で、神奈川からはバス4台、154人の参加でした。(加藤利秋)

険制度が始まったのを機に24時間巡回在宅ケアを開始した。本人希望の「死ぬまで介護」が目標で、鶴チーム(看護師+介護士)と亀チーム(介護士+介護士)の複数を配置して3年たった頃、「特別養護老人ホームをつくろう」という運動がでてきて、地域の大きな支持を得た。7町会に協力を要請し1人の会長を除き力を貸してくれた。土地の提供者が現れ、1億円を越す寄付金とで「老人保健施設・千寿の郷」を開設した。葛飾区でも運動を行い「葛飾やすらぎの郷」も開設。現在3つ目の施設建設を計画している。

* * *

討論では、「自宅を提供して高齢者のたまり場を作ったところ、『孤独死と買物難民をどうする』『映画の集いや食事の会を開こう』など、いろいろな知恵や工夫が広がった」「地域のたまり場をいろいろな条件を生かして作ろう。行政まかせでは間に合わない」などが話されました。参加者は48人。(鳥居伸太郎)

期^中体験記

「つたえたい想い」を語る

8月31日夜行われた子ども医療センター分会の平和集会上に、戦争体験を語るために出席しました。

はじめに、原水協神奈川県協議会の永沢丈夫さんが、「核兵器をめぐる情勢」と題して講演をされました。

そのあと、私が退職者こだま会で発行した『つたえたい想い―神奈川県職員の中体験を若い世代へ―』の作成経緯や内容について話しました。

その中でこだま会の事務局長を10年にわたって務めた青木武さんの特攻出撃体験について語り、青木さんが既に亡くなられていることを例に上げ、戦争体験を証言できる人が次第に少なくなっていく状況を憂慮してこの冊子を作ったと説明しました。

また、核兵器の話があったあとなので、冊子中の山本文子さんの文章を紹介するとともに、私自身の戦中体験について話し、平和を守ることの重要性を訴えました。参加者は15人位でした。集会に参加して、労働組合が職場でこのようなくみをするのがいかに大切かを痛感しました。(生方武羅夫)

絵手紙



松尾佐知子さんの作品



奥津弘久さんの作品

転居のときはすぐ「ご」連絡を

▼「こだま会報」は経費節減のため、宅配メール便を利用してお届けしています。

▼転居の時、郵便は1年間転送してくれますが、宅配メール便ではそのような制度はありません。毎回の発送の後、5〜6通が「転居先不明」で返ってきます。

▼転居されたら直ちにこだま会事務局(神奈川県職労連事務所内)に連絡してください。電話045-212-1317 又はFAX045-212-1317

●「第6回輝け高齢期かながわの集い」のご案内 11月17日(水)10時〜16時。川崎市産業振興会館(川崎駅西口8分) ☎044(548)4111

事務局だより

文化映画・時事映画・啓蒙宣伝映画の強制上映などが柱であった。

一方で「映画の保護育成」の観点から「優良映画の表彰」事業もおこなった。初年度は『土』(内田吐夢)、『土と兵隊』(田坂具隆)、『残菊物語』(溝口健二)の3作品が受賞した。内務省は警保局長賞としてこれらの映画制作会社、監督、出演者を招き、金一封を授与した、と当時の新聞は報道している。また文部省では『土と兵隊』を初の保存映画として指定した。『土と兵隊』は撮影に軍部の協力を得たが、現在の視点では厳しい

田中一男

が受賞した。内務省は警保局長賞としてこれらの映画制作会社、監督、出演者を招き、金一封を授与した、と当時の新聞は報道している。また文部省では『土と兵隊』を初の保存映画として指定した。『土と兵隊』は撮影に軍部の協力を得たが、現在の視点では厳しい

検閲を意識した監督の苦心がありと窺える。

また、監督の資質上、その種の映画を撮れない者もいた。女性映画の雄・溝口健二、映画詩人の清水宏、平凡な日常を描き続けた小津安二郎たちである。彼らは当時の軍国的思潮に真っ向から対峙せず自分の資質を生かす道を模索する。こうして作られたのが『残菊物語』(溝口)、『戸田家の兄妹』『父ありき』等である。

文化映画・時事映画・啓蒙宣伝映画の強制上映などが柱であった。一方で「映画の保護育成」の観点から「優良映画の表彰」事業もおこなった。初年度は『土』(内田吐夢)、『土と兵隊』(田坂具隆)、『残菊物語』(溝口健二)の3作品が受賞した。内務省は警保局長賞としてこれらの映画制作会社、監督、出演者を招き、金一封を授与した、と当時の新聞は報道している。また文部省では『土と兵隊』を初の保存映画として指定した。『土と兵隊』は撮影に軍部の協力を得たが、現在の視点では厳しい

検閲を意識した監督の苦心がありと窺える。また、監督の資質上、その種の映画を撮れない者もいた。女性映画の雄・溝口健二、映画詩人の清水宏、平凡な日常を描き続けた小津安二郎たちである。彼らは当時の軍国的思潮に真っ向から対峙せず自分の資質を生かす道を模索する。こうして作られたのが『残菊物語』(溝口)、『戸田家の兄妹』『父ありき』等である。映画法という悪法の下に苦心した監督たちを思うとき、現在の日本映画界の沈滞ぶりが実に歯がゆく思えるのは私だけだろうか。

映画随想 5

チャップリンが「あの恐るべき醜怪な化け物」と呼んだヒットラー。その存在を徹底的に揶揄した映画『独裁者』を、ヒットラーは少なくとも3回にわたって1人で鑑賞したという。映画の力を信じヒットラーを指弾したチャップリンだが、ヒットラーもまた映像の持つ力を十分に認識していた。ベルリンオリピックの記録映画『民族の祭典』『美の祭典』で、ドイツ民族の優秀さやナチスドイツの存在を徹底的に喧伝していたことは周知の事実だ。

ドイツの映画統制法をモデルにして日本の映画法が公布されたのは昭和14年4月で、同年10

月から施行となった。

この法に則り、日本映画界は全面的に侵略戦争に協力し、日本の戦争目的の正当化につとめ、日本軍人の勇気と祖国への忠誠心を賛美して、国民がもつと積極的に戦争に参加するよう促した。一方、国民も日本軍の勝利を謳歌する映画に熱狂し、それがしばしば大ヒットしたので、映画会社も競って戦記映画を制作した。

「映画法」の時代

映画法にはさまざまな規制が設けられていたが、なかでも映画製作と配給の許可制、脚本の事前検閲、外国映画の上映制限、

月から施行となった。この法に則り、日本映画界は全面的に侵略戦争に協力し、日本の戦争目的の正当化につとめ、日本軍人の勇気と祖国への忠誠心を賛美して、国民がもつと積極的に戦争に参加するよう促した。一方、国民も日本軍の勝利を謳歌する映画に熱狂し、それがしばしば大ヒットしたので、映画会社も競って戦記映画を制作した。